2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	<p>【上位目標】 ミンダナオ島北部ブキドノン州の先住民地域において、教育省、教師、先住民地域の教育能力を高めることで、先住民地域の子どものための教育環境を向上させること。 (達成度とその理由：100%達成) 予定していた活動がすべて実施され、期待していた成果指標も達成することができたため。また、研修参加者による自発的な取り組みも見られ、研修の効果が研修参加者各々の先住民学校とその地域レベルに波及していることが確認されているため。※詳細は、「3. 達成された成果」の通り。</p>
(2) 事業内容	<p>（ア）ブキドノン州全体の教育能力強化コンポーネント</p> <p>(1) 教師の能力強化研修 ブキドノン州の教師等を対象に「先住民の文化に適した学校教育」に関する研修を 11 回実施し、計 86 名（延べ 392 名）が参加した。</p> <p>(2) 先住民地域の学校運営強化研修 ブキドノン州の学校運営者等を対象に、「先住民の学校運営」に関する研修を 5 回実施し、計 69 名（延べ 191 名）が参加した。</p> <p>（イ）重点モデル地域サルマヤグにおける、教育環境整備コンポーネント</p> <p>(3) 重点モデル地域サルマヤグにおける「先住民に優しい学校建設」(ハード) サルマヤグ小学校に 1 棟 2 教室の建設と 100 名分の机・椅子・黒板等の備品の整備を行った。</p> <p>(4)PTCA (Parents-Teachers Associations) の能力強化研修 サルマヤグ村の地域住民を対象に、PTCA 組織化や運営方法に関する研修を計 6 回実施し、計 43 名（延べ 169 名）が参加した。</p>
(3) 達成された成果	<p>【成果 1】ブキドノン州の教師の能力が向上する。</p> <p>(指標 1) 研修に参加した 80%以上の教師が、先住民の文化に適した教育の教授方法を、3 つ以上具体的かつ体系的に説明できる。 (実施前後の数値)0 個→3 個 (インタビューで確認)</p> <p>(達成度とその理由) 100%達成 研修後に実施した効果測定確認テストにおいて、研修に中心的に参加した 25 名の教師が、先住民の文化に適した教育の教授方法について「授業案の土着化」「地域先住民の巻き込み」「文化行事への参加機会の創出」等のキーワードを、具体例を用いて説明できるようになったことが確認された。 各先住民学校では、先住民の文化に適した教育の教授方法について教師同士が学び合い、専門性を高め合う独自の活動も始められている。この活動は、教育省により実施が義務付けられていたが、先住民学校に関しては先住民の子どものための教授法に関しての参考資料がなかったため、教師が何をどのように議論してよいかわからず、教育省より例外的措置を受けていた。研修を経て、参考資料や教授法についての知識が身に付き、週に一度の定例会が実施されるよう</p>

になった。そこで、先住民の文化や知識に関して詳しい教師が新人の教師に共有したり、各々が授業中に直面した課題について話し合ったりしている事例が報告されている。

また、本研修を経て、教師たちは「先住民の言葉を使って授業を行う」ことの重要性を理解し、積極的に先住民の言語を習得するようになった。その結果、先住民の親たちが教師とコミュニケーションをとれるようになり、学校行事に協力的になったことや、先住民の子どもが授業で教師の話していることを理解するのが容易になり、学習内容に興味を持てるようになったと、対象校より報告を受けている。

【成果 2】先住民ティグワハノンの文化に適したカリキュラム・教材が完成する。

(指標 2)先住民ティグワハノンの文化に適したカリキュラムが完成し、教材が各教科 1 個ずつ、合計 13 個完成する。

(実施前後の数値)カリキュラム 0 個→1 個 (活動記録で確認)

教材 0 個→13 個 (活動記録で確認)

(達成度とその理由) 100%達成

本事業終了までに、先住民ティグワハノンの文化に適したカリキュラムが完成し、また 12 教科各 1 つ、更に国語は 2 つ、合計 14 の教材が完成した。例えば、小学校 1 年生向けの国語の教材では、先住民地域にある草花や動物、道具など、子どもたちにとって親しみのあるものの名前からアルファベットを学ぶことができ、また道徳の教材では、先住民の子どもたちの家庭や地域での役割を挿絵とともに学ぶことができるなど、先住民の子どもたちが興味を持って学習に取り組める教材になっていることを確認した。また社会の授業案では、先住民ティグワハノンの稲作方法について学ぶ際に、単純に道具の名前を暗記させるのではなく、この道具は何のためにあるのか、どうしてこの道具を使わなければならないのか等、日頃行われている文化活動の背景にある先住民ティグワハノンの知識体系を問う内容となっており、子どもたちの教科における理解度を深め、学習到達度を高められる授業内容となっていることを確認した。

各学校では、教育省主体でカリキュラムや教材の試験運用が行われた。教師に一定期間カリキュラムと教材を使用してもらい、実態に合っているかどうか、また教材は使いやすいかどうか等を検証し、見直しを行った上でカリキュラムや教材を完成させており、先住民ティグワハノンの文化に適したカリキュラムと教材の質を自分たちで高めていこうとする活動が見られた。

【成果 3】ブキドノン州の先住民地域の学校運営能力が向上する。

(指標 3)ブキドノン州の先住民地域の学校の運営に携わる者が、具体的な学校運営方法を 3 つ以上述べることができる。

(実施前後の数値) 0→3 つ (インタビューで確認)

(達成度とその理由) 100%達成

研修後に実施した効果測定確認テストにおいて、研修に参加した 15 名の学校運営者が、先住民の学校運営方法について「運営資金調達」「教師の育成」「退学防止」等のキーワードを、具体例を用いて

説明できるようになったことが確認された。

各学校では、先住民学校の運営方法を 2017 年 6 月より本格的に実施するための環境作りや下準備をしていこうとする活動も見られた。例えば、ティブガワン小学校では、以前起こった先住民間闘争により崩れてしまったコミュニティの共同性を取り戻すため、学校運営者が先住民地域に積極的に足を運び、新校舎建設や退学防止のために地域と学校がどのように協力し合えるかを話し合う場が設けられており、サルマヤグ小学校では、教師と先住民の親との良い関係性を構築するため、学校運営者自らが先住民の言葉を学び、それをハンドブックにまとめて教師に配り、地域先住民とのコミュニケーション機会の創出を促している、という事例が報告されている。

【成果 4】 サルマヤグ小学校の子ども 80 名の教育環境が整備される。

(指標 4) 同校 80 名以上の子どもたちが、教育省基準に従った 2 教室で、自分の机と椅子を使用し、学ぶことができる。

(実施前後の数値) 0 教室→2 教室 (モニタリングシートで確認)

(達成度とその理由) 100%達成

サルマヤグ小学校において、1 棟 2 教室の新築及び手洗い場が完成した。また、各教室には生徒用の机椅子が 100 個、教師用の机と椅子、戸棚が 1 セット、そして黒板も各教室に 1 つずつ設置され、計 100 名の子どもたちの教育環境が改善された。本事業開始前、簡易教室に壁がないために雨が降ると雨が入り込み、しばしば授業を中断しなければならなかったり、机と椅子がないために地べたに座って授業を受けなければならなかったりしたサルマヤグ小学校の状況が、校舎の完成によって改善された。また、新校舎が完成したことにより、サルマヤグ小学校に入学したいという住民が近隣からサルマヤグ村に引っ越してくる事例も見られた。2017 年 6 月より、新しい教育年度となるが、生徒数の増加が見込まれている。

【成果 5】 サルマヤグ小学校における PTA の能力が向上する。

(指標 5) 組織化された PTA 役員の 80%以上が、PTA の責任・役割を具体的に述べることができる。

(実施前後の数値) 30%→80% (インタビューで確認)

(達成率とその理由) 100%達成

研修後に実施した効果測定確認テストにおいて、組織化された PTA 役員の 100% (計 7 名) が PTA の責任・役割を具体的に述べることができた。研修を経て、PTA 役員は組織の方向性を定めるための VMGO (Vision Mission Goal Objectives) を制定し、また年間行動計画も作成された。研修後のフォローアップ調査では、PTA 会長が指揮をとり、新校舎の設備が盗まれたり汚されたりしないように、PTA 役員とメンバーが学校の設備維持のためのモニタリングを行っていることが報告されている。また、年間行動計画に記載された「子どもたちの衛生環境向上のためのトイレの設置」と「子どもたちの昼食の確保」について、この行動計画の責任者として定められた PTA メンバーが中心となってトイレ設置場所や資材について協議し、新しく子どもたちのためのトイレが 1 つ設置されたほか、家庭菜園を作り子どもの昼食を確保する活動も報告されている。このように、

	<p>実際の行動においても、PTA の責任・役割が果たされているということが確認されている。</p>
<p>(4) 持続発展性</p>	<p>当団体は、研修の効果及び建設された教室と設置された備品について、事業終了後最低5年間、モニタリングを行うとともに、随時フォローアップをしていく。各活動の詳細は以下の通りである。</p> <p><u>(ア) ブキドノン州全体の教育能力強化コンポーネント</u></p> <p>ブキドノン州の教師の能力向上については、先住民の文化に適した教育の教授方法について教師同士が学び合い、専門性を高め合う定例会を開催し始めているが、これらの活動は、教育省が定めた教師の専門性を高める活動方針が記載されている通達「教授法及び学習法向上のための学校を主体とした教師の専門性開発戦略」を担保として、その効果が持続することが期待されている。</p> <p>先住民の文化に適したカリキュラム・教材の作成研修においては、完成したカリキュラム・教材は教育省の認定を受け、教育省、学校、申請団体の間で正式なカリキュラム・教材として使用するという旨の了解覚書 (MOA) を交わしたことを担保に、その持続的効果が期待されている。</p> <p>ブキドノン州の先住民地域の学校運営能力の向上については、本事業を通して作成された「年間学校運営計画書」に、「近隣私企業との CSR を通じたパートナーシップ構築」や「伝統舞踊や歌といった先住民文化行事の学校活動への導入」、「学校が遠くて通えない子への地域先住民との共同による仮校舎の建設」等が盛り込まれているが、この「年間学校運営計画書」は、教育省が学校活動の評価やモニタリングに活用する文章であり、教育省による学校への予算配分を行うための文章でもある。ブキドノン州の先住民地域の学校運営能力の向上は、このような仕組みで持続性が担保されることが期待されている。</p> <p><u>(イ) 重点モデル地域サルマヤグにおける、教育環境整備コンポーネント</u></p> <p>建設された教室や備品の維持管理は、当法人と教育省及び対象校の間で取り交わされた「引渡協定書 (Deed of Donation)」に基づき、教育省と学校が予算措置を行うことで維持管理を行う。</p> <p>サルマヤグ小学校の PTA の能力向上については、学校運営者が PTA のアドバイザーとなり活動をモニタリングすることが教育省により義務付けられている。また、本事業を通して作成された PTA の年間行動計画は、学校運営者が作成する「年間学校運営計画」、そして実際に行動した結果については、「学校主体の活動報告書」に統合され、教育省に提出される。「年間学校運営計画書」や「学校主体の活動報告書」は、教育省が学校の評価やモニタリングに活用する文章であり、教育省による学校への予算配分を行うための文章でもある。サルマヤグ小学校の PTA の能力向上は、このような仕組みで持続性が担保されることが期待されている。</p>